

歯科専だより

東北文教大学との交流事業

令和元年7月24日(水)、東北文教大学において今年で3度目となる山形歯科専門学校と東北文教大学との交流事業が行われた。

この事業は、本校歯科衛生士科3年生と東北文教大学短期大学部の人間福祉学科2年生、子ども学科2年生が、今まで学んできた専門的な知識や技術をお互いに教えあい、学びあうことを通して理解を深め、実践力の向上へとつなげていくことを目的としている。

第1部は、本校の大貫英一校長と東北文教大学の須賀一好学長より学校代表の挨拶があり、その後、両校の担当教員が1名ずつそれぞれの専門領域に関する講義を行なった。

第2部は、各科2名程度で6人前後のグループを作り、人間福祉学科の学生からは、「高齢者・障がい者への歩行介助、車椅子での移動介助」について、子ども学科の学生からは、「子ども・障がい児

(者)との創作活動を通じた関わり」についてそれぞれ学んだ。歯科衛生士を目指す本校の学生からは、「子どもや障がい児(者)・高齢者への、安全な口腔ケアの方法」について、幼児と高齢者の口腔の特徴や、実際の口腔ケアの方法を、顎模型や部分床義歯、さまざまな口腔ケアグッズを用いて、他学科の学生にわかりやすく伝えた。他科の学生も保育園や高齢者施設へ実習に出て、口腔ケアを行う機会があるとのことで、皆真剣に耳を傾けていた。

それぞれが、今まで学んできた専門的な知識や技術を、臨床実習などを通して自分達が積み重ねてきた経験と併せて、細部にわたって教え合っていたようである。

3つの学科ともに、人と関わる職業に就く点においては共通するため、知識や技術以外にも、相手に対するコミュニケーション力や、思いやりの気持ちを持つなどの対象者へ配慮する能力も必要になるが、学生同士それぞれ、自分から進んで対話を行い、大変有意義な交流事業となった。

今回は、東北文教大学で行われたが、9月には、人間福祉学科1年生を本校に招いて交流事業を行う予定である。これら相互の交流により、学生個々の実践力向上とともに、幅広い視野の獲得と多職種連携についての理解を深めてほしいと願う。

以下、学生の感想を記す。

(教務主任 結城 泉 記)

第3学年 瀬戸なな

歯科衛生士は、子どもから高齢者まで幅広く関わる仕事であり、一人ひとりに適した対応が求められる。今回の交流事業は、子ども



大貫校長の挨拶



須賀学長の挨拶



片麻痺の場合の車椅子移動の介助について学びました



子ども向けの歌と手遊びの実技を学びました

と高齢者の対応方法を学び、どんなことにも意味があるのだと改めて思った。これから社会に出て働くことになるが、一人の対象者に対して様々な専門職が連携して関わる社会になっていく中で、お互いの仕事内容を理解する良い機会となった。

第3学年 松田星奈

子ども学科の学生さんは、いつも笑顔で優しく対応してくれたので、人と関わる時の表情や言葉遣いなどを意識することが重要だ



顎模型を使ってきれいにしてみましょう

と感じた。福祉の体験では、車椅子の移乗方法の再確認ができた。

私は、口腔のことをあまり知らない方々に伝えるとき、わかりやすく伝えるために、専門用語を使用せず言葉を選び、実際に模型や歯ブラシを触らせて理解してもらうよう努めた。

この体験を通して、多職種連携の重要性を理解することができ、とても良い勉強になった。